

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第23号

平成29年11月20日発行  
須賀川市立第二中学校  
☎75-2910  
発行責任者：校長 高崎則行

# 『完全燃焼』 盛り上げた応援部 今日から「うちの子どもたちを見てください」と言うんだ



周囲の松明の熱気に包まれながら点火

11月11日(土)、やや強い風が吹く中、伝統の松明あかしが行われ、本校の松明が時折降る雨をものともせず、大きな炎を上げて燃えさかりました。

前日の出発式で、私は「皆さんと半年以上生活を共にし、皆さんに対する自信が深まってきました。松明あかしを境に、『須賀川二中ではどのような教育をしているのですか。』と聞かれたら、『うちの子どもたちを見てください。』と言いたいと思います。いいですか?」と尋ね、威勢のいい返事をもらいました。

さて、松明あかし当日は、須賀川グランシアさんのご厚意で、駐車場をお借りして応援部を中心に氣勢を上げてから五老山に移動をしました。道行く人々が、この応援部の演技に足を止め、中には「素晴らしいですね。」「女の子もいるんだね。勇ましいね。」と声をかけてくださる女性もいました。(感謝です!)

そして、本番。火の粉といわず、風にあおられ燃えさしの塊も飛んでくる中、松明をよじ登って点火する前生徒会長 星智徳くんも決死の様子。松明制作を指導してくれた伊藤克一さんのアシストもあって炎を上げ始めた松明を後押しするための応援が熱を帯びてきます。

圧巻だったのは、「須二中、わっしょい」「燃えろ、松明」と叫んで片足で跳ねる演技。私も、30回までは数えていましたが、数え切れないほどの回数を飛び跳ねて、しかも、それを何度も繰り返す様子は、まさに「不撓不屈」「完全燃焼」を体現していました(太鼓担当も、すごい真張りでした)。

松明あかしに参加したことで前面に出てきたこの日の気概を、今後の人生で困難を感じたときにこそ思い浮かべてほしいと願い、私は満足して五老山を後にしました。



一般生徒も応援部と一体になって応援



校長も右上にちゃっかり写ってます。



締めは教員へのエール。みんな満面の笑み

## 学校公開への参加に感謝 模擬店・教育講演会も有意義に

11月11日(土)の教育講演会には、運動部の県大会参加のため90名弱の生徒が不在であったにもかかわらず、大勢の保護者の皆様に参加いただき、ありがとうございました。

授業参観では、各学年とも生徒のしっかりとした学習に対する姿勢を見ていただき、生徒同士が関わり合っている姿に「学び上手」になってきた様子が見えきました。



また、模擬店で食べ物を受け取って、教室とは違う表情でほおばっている生徒と教師の姿からは、模擬店を本当に楽しみにしているのだと感じました。

毎年学校公開に合わせて実施している教育講演会は、福島大学の小野原雅夫先生を講師に「みんながって みんないい」という演題で、人権に関するお話をいただきました。誰もが生まれながらにして持っている人権について理解を深め、互いを尊重し合う意識を高めるいい機会となりました。



## 少・青年期に読んでおきたい本

お子さんが持っている「須二中生活ノート」をご存じでしょうか。この最後に「須賀川二中推薦図書」として計30冊を紹介しています。

現在これらの図書は各教室の学級文庫に備えられています。朝、校舎内を巡回しながら、その場の思いつきでいくつかの図書を少し前にずらしてみました。次のような書名の本です。

十五少年漂流記 (ジュール・ベルヌ)

父の詫び状 (向田邦子)

モリー先生との火曜日 (ミッチ・アルバム)

いちご同盟 (三田誠広)

塩狩峠 (三浦綾子)

例えば、「十五少年漂流記」は、15人の少年が無人島から生還するまでの2年間を描いた冒険談。私は小学校時代に読み、4、5年前にもう一度読んでみました。50歳代で読んでも新鮮な面白さがありましたが、少年時代にも読んでおいてよかったなと思いました。

また、「いちご同盟」は、教員になってから刊行された本。いち(一)・ご(五)、すなわち15歳の二人の少年と一人の少女が深い苦しみを経てある誓い(同盟)を交わす、生きることの意味を問う重いストーリーに、20歳代後半で読んで大きな感銘を受けました。しかし、主人公たちと同年代の時に読んでいたらどんな感じ方ができたかな、と寂しく感じたものでした。

名作はいくつになっても、その年代その年代での味わいがあると言われます。まさにその通りなのでしょうが、少年期・青年期にしか感じられない味わいを逃してほしくない本もあります。

## ことばの力⑦「夢に向かって苦しむことができるなんて幸せなことだと思ふぞ」

佐藤健主演のTVドラマ「天皇の料理番」を見ていてメモしておいたセリフです。私が大学生の時、堺正章主演で一度ドラマ化されています。当時、私はテレビを持っていなかったため、原作本を買って読みました。後にその一節を道徳の時間の資料に使ったこともあります(「心に押される烙印」というテーマで実践しました)。ですから、平成27年の放送は毎週楽しみでした。

「四苦八苦」という言葉があるように、生きていく上で逃れられない苦しみがあります。特に思春期以降は、苦しみの自覚なしに生活を続けている人はいないのではないのでしょうか。私も例外ではないので、このセリフに強く惹かれたのです。はい。ですから、私は幸せです。子どもたちの成長に関わることで生じる感情のすべてを前向きに受け止めたいと思います。

柔道のヤワラちゃんこと、谷(旧姓:田村)亮子は「神様は、乗り越えられない試練は与えない」という名セリフを残しました。中学生諸君も、勉強に、部活動に、そして進路を切り拓くために、苦しいと思うことが多くなっていく時期です。夢をもって、それに向かっていけば、その苦しみの見方をプラスに変えることができる、そう伝えてあげたいですね。



この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。